

北九州マイスター匠塾の活動について

ポリテクセンター八幡
(八幡職業能力開発促進センター)

青地 学

1. はじめに

北九州地域では、官営八幡製鐵所で1901年に火入れが行われて以来の歴史の中で、「モノづくりの伝統」や「蓄積された技術力」が形成されていった¹⁾。

しかし、地域の基幹産業である既存の基礎素材型産業が伸び悩む中で、北九州地域の有効求人倍率は平成16年5月で0.54%と全国平均0.80%を下回り、雇用環境は厳しい状況となっている²⁾。市の人口の減少傾向³⁾にも表れている地域経済の厳しい状況に加え、市内総生産に占める製造業の割合が減少傾向にあるものの、北九州市が「モノづくり」の街であることに変わりはない。「モノづくり」の伝統の継承と発展は地域経済の復興への課題である。

そこで北九州市では、4年前に独自のマイスター制度を設立した。製造業関連分野において特に優れた高度熟練技能者を北九州マイスターに認定するとともに、技能者育成の現場での活躍を期待している。この北九州マイスターの技能伝承を实践する場の1つとなっている北九州マイスター匠塾について報告する。

2. 北九州マイスター制度について

北九州マイスター制度は、①北九州市の高度な産業技術を支える卓越した技能者を認定、表彰する、②技能者の社会的な認知度を高める、③認定者の技能伝承活動を通じて、優れた技能の維持・継承およ

び次代の人材の確保・育成を図る、ことを目的としている。

2.1 対象者

- ① 北九州市において、「産業振興に貢献した人」「産業の発展に欠かせない人」であり、現にモノづくりに従事する技能者。
- ② 技能検定がある職種は、一級（または単一級）以上の資格取得者、公的資格のある職種は、資格取得者。
- ③ 当該職種に20年以上の従事経験を有し、年齢は40歳以上の人。
- ④ 北九州市に5年以上在住、または勤務する人。
- ⑤ 指導育成能力を有し、後進の育成指導が十分に期待できる人。

2.2 対象分野

金属・機械関係、化学・窯業関係、電気・電子関係、建築・建設関係、その他モノづくりに関係する分野。

2.3 これまでの認定者一覧

表1に示す認定者一覧にある認定者の分野および企業をみると、製鉄をはじめとする基礎素材型産業に加え、従来の製造技術が他分野に発展し高度化したものが見られ、北九州地域の産業の情勢をよく反映していることがわかる。

表1 認定者一覧

認定回 (募集年度)	氏名	分野	企業名
第1回 (平成13年度)	馬場 政光	高炉製鉄	濱田重工(株)
	坂根 賢次	溶着	岡野バルブ製造(株)
	山田 哲彦	溶接	エムイーシーテック(株)
	生野 保幸	機械加工	東陶機器(株)
	堀川 英樹	ワイヤロープ加工	(株)ホリカワ
	津上 義博	衛生陶器原型製作	東陶マイスター(株)
第2回 (平成14年度)	佐藤 元昭	金型研削加工	(株)三井ハイテック
	村上 英俊	半導体製造装置組立、金型仕上げ	(株)東芝セミコンダクター
	平湯 達吉	仕上げ(機械組立・整備・据付)	住友友利コテック(株)
	窪下 龍二	機械保全	新日本製鐵(株)
	松崎 正則	高炉建設	山九(株)
	測 徳生	溶接	山九プラント工業(株)
第3回 (平成15年度)	梅田 茂美	自動車用部品 治工具製作	(株)九州テクノメタル
	三井田和紀	築炉	板井築炉(株)
	安川 順一	メカトロ巻線	(株)安川電機

3. 北九州マイスター匠塾

前述した北九州マイスター制度の目的の1つである「認定者の技能伝承活動を通じて、優れた技能の維持・伝承および次代の人材の確保・育成を図る」ため、以下の3つの活動が行われている。①小・中・高・大学などの若者向けに、自らの体験談を通じモノづくりの大切さや面白さを伝える活動、②マスコミ等の取材に応じ、産業を支える縁の下の力持ちである熟練技能者の存在を広く市民に伝える活動、③中小企業で働くプロの技能者向けにマイスターならではの匠の技を伝える活動。

①、②については北九州市で実施可能であるが、③については実施可能な訓練施設、企画・募集・実施等の訓練カリキュラム運営ノウハウが必要であるので、これらが備わったポリテクセンター八幡とタイアップして実施されることとなった。

溶接技能および旋盤技能コースの講習内容は、申込み用紙で事前に希望調査し、講習初日に技能検定の課題を通じて受講者の技量を把握して後日の内容が決定されている。講習中においては一方的なカリキュラムの押し付けはせず、個々の受講生が現に職務で困っていることを、講師である北九州マイスタ

ーが逐次ヒヤリングしながら、1つでも多く問題を解決できるように努めている。表2は北九州マイスター匠塾の開催概要である。

表2 北九州マイスター匠塾開催概要

回	日程	コース	定員
1	平成14年11月9日,16日,23日,30日(4日間)	溶接部門	10名
		機械加工部門	10名
2	平成15年6月14日,21日,28日(3日間)	溶接技能コース	12名
		旋盤技能コース	8名
3	平成15年11月15日,22日,29日(3日間)	溶接技能コース	12名
		ワイヤロープ安全講習コース	30名

(ワイヤロープ安全講習コースは(社)九州機械工業振興会で開催)

図1および図2は北九州マイスター匠塾の溶接技能コースおよび旋盤技能コースにおいて、北九州マイスターが高度な熟練作業を実演している模様である。



図1 溶接技能コースでの実演



図2 旋盤技能コースでの実演

4. アンケート結果

第3回北九州マイスター匠塾、溶接技能コース受講者13名全員に対するアンケートの結果を図3～6

に示す。図3に示す技能向上を図るために苦労していることに対する問いに対して、「訓練する機会がない」に次いで、「教えてくれる人がいない」という回答が続いていることは、匠塾が地域の訓練ニーズに応え、北九州マイスター制度の目的に合致していることを示している。

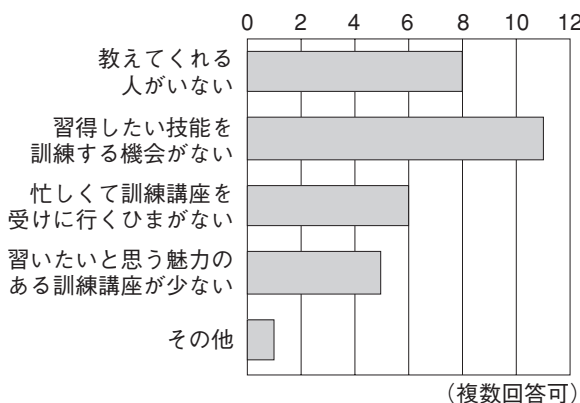


図3 技能向上を図るために苦労していることは何ですか。

図4に示す講師についての問いに対しては、「わかりやすかった」が全体の92%を占め、北九州マイスターの指導育成能力の高さを裏付けている。

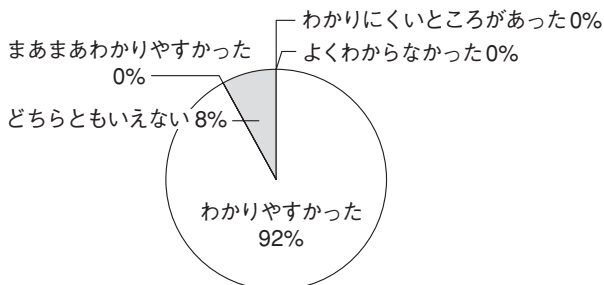


図4 講師についてお答えください

図5に示す内容については全体の92%から満足との回答が得られ、講習の内容は妥当であったといえる。

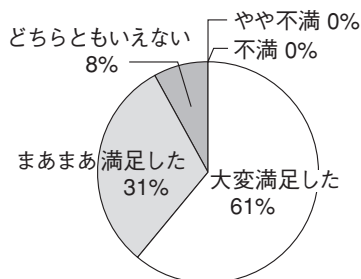


図5 内容についてお答えください

図6に示す次回の参加意欲について92%がまた「ぜひ参加したい」と回答しており、匠塾への期待の

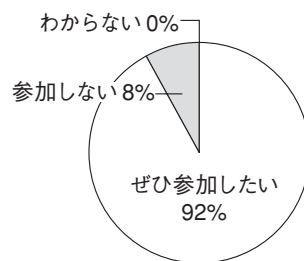


図6 また参加したいと思いますか

高さがうかがえる。また、図3で示した問題を含めて考えると、さらなる技能向上にとって匠塾が必要とされていると考えられる。

5. おわりに

北九州市は「モノづくり」の街であり、歴史の中で育まれた裾野の広い技術の宝庫である。地域の将来は産業の復興にかかっており、「モノづくりの伝統」を継承する人材の育成、それに製造技術の高度化と他分野への発展が課題となっている。地元への愛着と仕事への情熱を持った人々が、組織の枠にとらわれることなく伝統を次の世代に引き継ぐための試みが続いている。

ポリテクセンター八幡での北九州マイスター匠塾の試みは、地域に根ざした能力開発の取り組みとして受容され、今後の継続的な開催と発展が期待されている。

【謝辞】

この調査に当たって御教示をいただいた北九州マイスターでエムイーシーテクノ(株)の山田哲彦氏、北九州マイスターで東陶機器(株)の生野保幸氏、北九州マイスター(平成16年度認定)で(株)サンキュウリサーチアンドクリエイトの小林秀稔氏、北九州市産学連携課の都甲猛氏、梅田賢吾氏に謝意を表します。

<注>

- 1) 清水憲一『21世紀の安定化条件』九州大学出版会、2001年、p.57.
- 2) 八幡公共職業安定所『管内雇用失業情報』同所、2004年5月、p.1.
- 3) 北九州市広報室広報課『市政だより きたきゅうしゅう No.981』同課、2004年7月1日、p.7.